

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●阪神ジュベナイルフィリーズはレシステンシアが優勝

12月8日(日)に行われた阪神ジュベナイルフィリーズ(G I)ではレシステンシア(牝2歳/栗東・松下武士厩舎)が勝利、G I初制覇を果たしました。勝ちタイムの1分32秒7は、2006年にウオッカが記録した基準タイム1分33秒1を更新するレースレコードならびに阪神・芝1600mの2歳コースレコードとなります。

●藤田菜七子騎手が女性騎手初のJRA平地重賞制覇

12月8日(日)の5回中山4日・第11レースとして行われたカペラS(G III)ではコパノキッキングが1着となり、同馬に騎乗した藤田菜七子騎手(美浦・根本康広厩舎)はJRA重賞初制覇を果たしました。2002年中山大障害(J・G I)でロシェル・ロケット騎手(ニュージランド)がギルデッドエージに騎乗し優勝した例はありますが、JRA所属の女性騎手によるJRA重賞制覇および女性騎手によるJRA平地重賞制覇は史上初のこととなります。

●松若風馬騎手がJRA通算300勝を達成

12月8日(日)の4回中京4日・第1レースではハイアークレードが1着となり、同馬に騎乗した松若風馬騎手(栗東・音無秀孝厩舎)は、現役50人目となるJRA通算300勝(4217戦目)を達成しました。

●幸英明騎手がJRA通算2万回騎乗を史上最速で達成

12月8日(日)に行われた阪神ジュベナイルフィリーズ(G I)でジェラベッシュに騎乗した幸英明騎手(栗東・フリー)は、この騎乗で史上4人目・現役4人目となるJRA通算2万回騎乗を達成しました。デビューから25年9か月4日、43歳10か月27日での2万回騎乗達成は、武豊騎手(デビューから29年6か月4日、47歳5か月21日)を超えるJRA史上最速・最年少記録となります。

●浜田多実雄調教師がJRA通算100勝を達成

12月7日(土)の4回中京3日・第12レースとして行われた鳥羽特別ではマルカテノールが1着となり、同馬を管理する浜田多実雄調教師(栗東)は、現役148人目となるJRA通算100勝(延べ1571頭目)を達成しました。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●クイーン賞(船橋)はクレイジーアクセルの逃げ切り勝ち

クイーン賞(Jpn III、12月11日、船橋、1800m)は、逃げた4番人気の大井所属馬クレイジーアクセル(吉原寛人騎手=金沢、牝4歳、父ロージズインメイ)が後続を2馬身半引き離してダートグレード競走初制覇。3番人気のプリンシアコメータが2着に入り、2番人気のラインカーナは3着、1番人気に推されたアンデスクイーンは5着、トーセングーネットは10着に敗れています。

●テイエムサウスダンらが出走、12月18日の全日本2歳優駿

全日本2歳優駿(Jpn I、12月18日、川崎、1600m)は、兵庫ジュニアグランプリ1、2着馬テイエムサウスダン、メイショウテンスイに、北海道2歳優駿を逃げ切ったキメラヴェリテの3頭が主力を形成、次いでアイオライト、ヴァケーション(川崎)、インペリシャブル(川崎)までが争覇圏内と考えられます。他にJRAからは九州産馬のイロゴトシが出走の予定です。

●12月19日の名古屋グランプリはアナザートゥルースが有力

名古屋グランプリ(Jpn II、12月19日、名古屋、2500m)は、混戦模様もアンタレスS優勝馬アナザートゥルースが中心、以下アングライフェン、デルマルーヴル、メイショウワザシ、アポロテネシーの順に有力視されます。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●香港国際競走～日本調教馬が3勝の大活躍

12月8日、4つのG1を1日でまとめて開催する香港国際競走が香港のシャティン競馬場で行われ、日本調教馬が3勝をあげる大活躍を見せました。まず最初に勝利を手にしたのはG1香港ヴァーズ(3歳上、芝2400m)のグローリーヴェイズ(牡4歳、父ディーブインパクト、美浦・尾関知人厩舎)。ジョアン・モレイラ騎手を背に中団からレースを進め、残り200mを切った辺りで抜け出しているG1初制覇でした。続いてG1香港マイル(3歳上、芝1600m)を勝ったのがアドマイヤマーズ(牡3歳、父ダイワメジャー、栗東・友道康夫厩舎)。クリストフ・スミヨン騎手が手綱をとった同馬は中団待機から残り100m付近で先頭に立つ競馬で優勝。これで朝日杯フューチャリティS、NHKマイルCに続くG I・3勝目としました。そして見事にメインのG1香港C(3歳上、芝2000m)を制したのがウインブライト(牡5歳、父ステイゴールド、美浦・島山吉宏厩舎)。松岡正海騎手とのコンビで臨んだ同馬は3番手追走から残り150m付近で先頭に立って優勝。今年4月に今回と同距離同コースで行われたG1クイーンエリザベスII世Cに続くG1・2勝目をあげました。G1香港スプリントでは、香港のビートザロック(騾6歳、父ヒンチンブルック)が優勝。日本のダノンスマッシュは8着でした。なお、日本調教馬が3勝をあげたのはステイゴールド(香港ヴァーズ)、エイシンプレストン(香港マイル)、アグネスデジタル(香港C)で制した2001年以後のことです。